A stylized landscape illustration featuring rolling green hills in the foreground, a winding brown path, and a blue sky with white clouds. On the left, there are green trees, a purple flower, and an orange bird flying. The text is centered in the upper half of the image.

ベラルーシの公益基金、チェルノブイリの子どもたち
を継承した団体

「子どもたちに喜びを」
“Freude den Kindern”

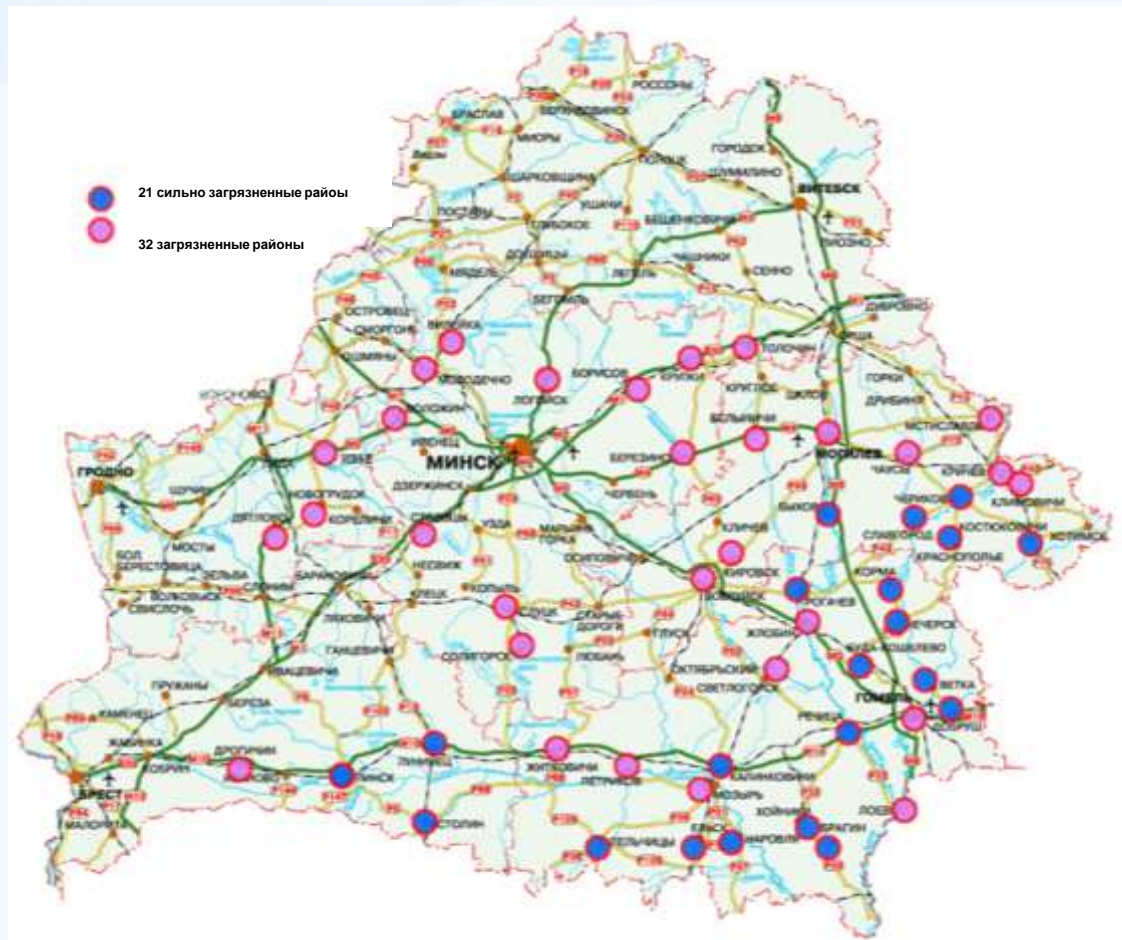
プロジェクト – 糖尿病と共に生きる

今日のベラルーシ共和国



- 面積 – 207,600 km²
- 人口 – 9,468,074人

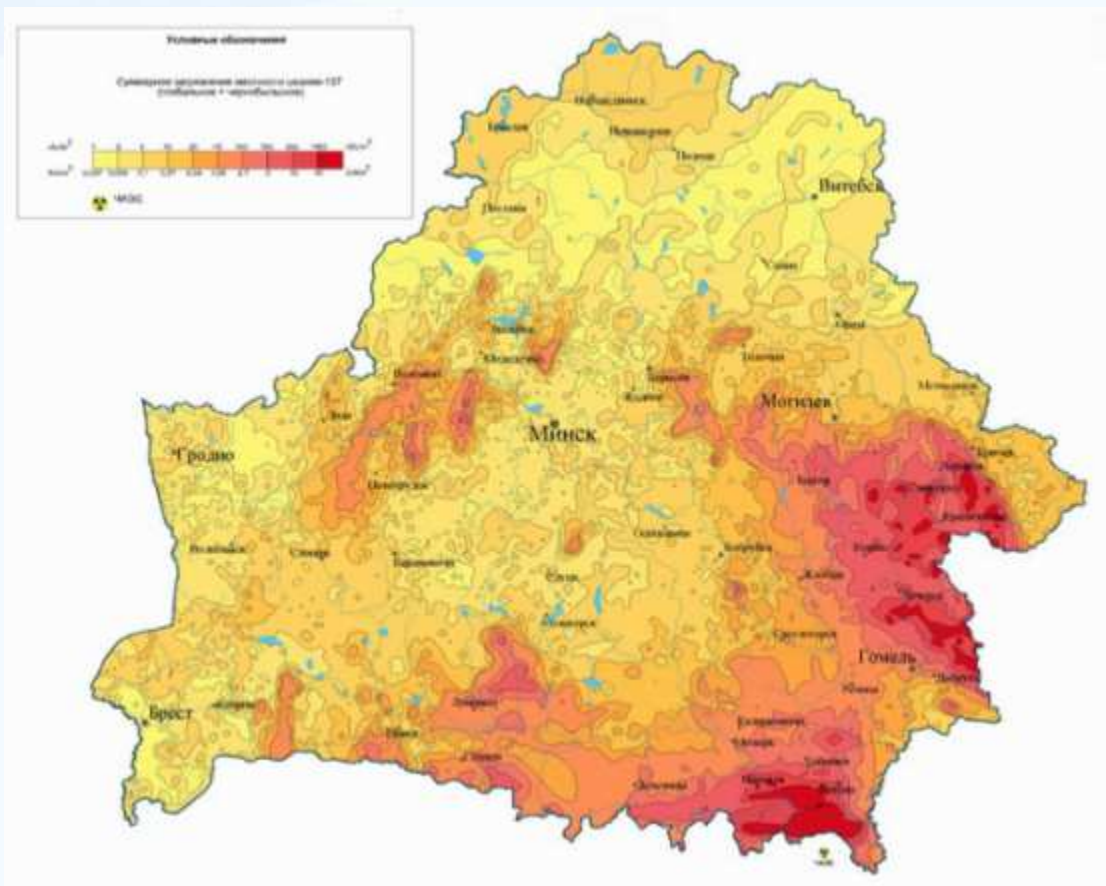
ベラルーシ共和国、放射能汚染の現状



- 行政区 - 118
- 激しく汚染された行政区 - 21
- 汚染された行政区 - 32

http://www.rbic.by/index.php?option=com_content&view=article&id=107&Itemid=12

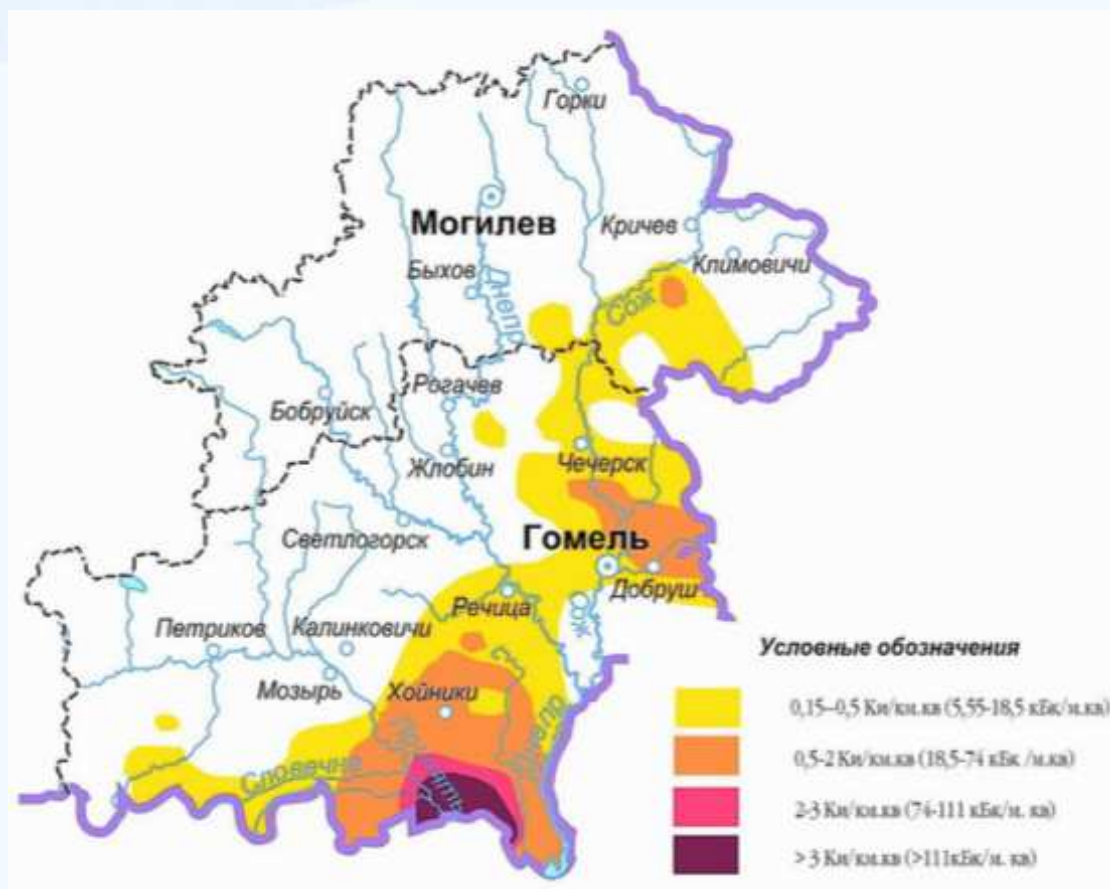
ベラルーシ共和国、放射能汚染の現状



- セシウム137による汚染
国土の20%

http://www.rbic.by/index.php?option=com_content&view=article&id=107&Itemid=12

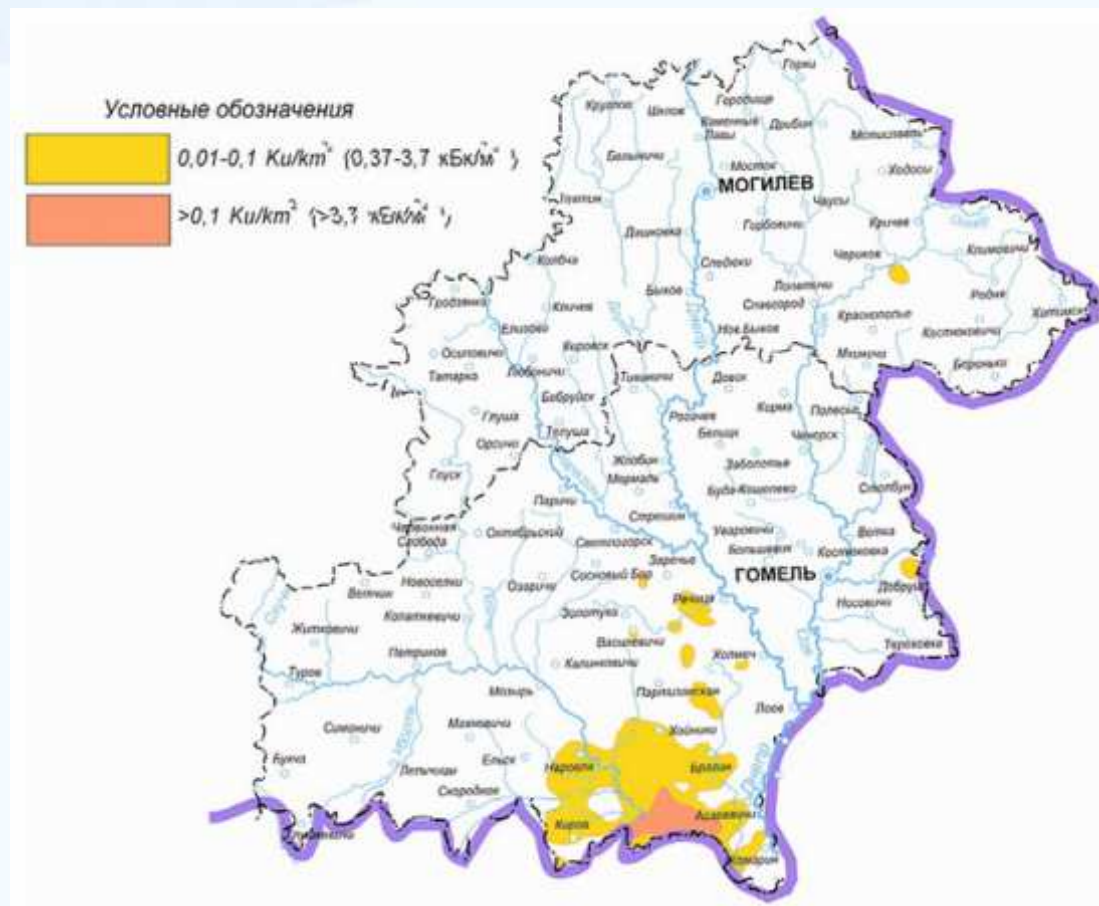
ベラルーシ共和国、放射能汚染の現状



- スロンチウム90による汚染
国土の10%

http://www.rbic.by/index.php?option=com_content&view=article&id=107&Itemid=12

ベラルーシ共和国、放射能汚染の現状



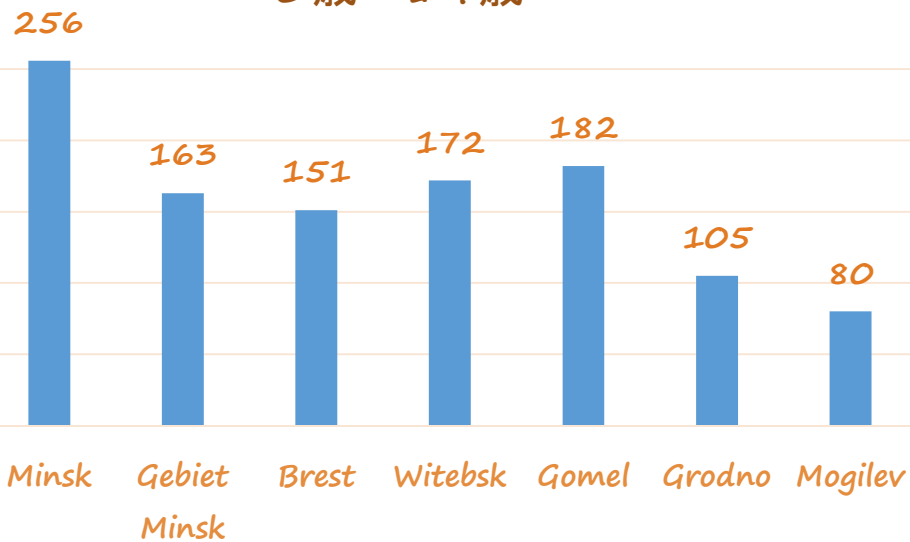
- 超ウラン元素の同位体による汚染
国土の2%

http://www.rbic.by/index.php?option=com_content&view=article&id=107&Itemid=12

1型糖尿病の子どもの数 ベラルーシ – 1590人

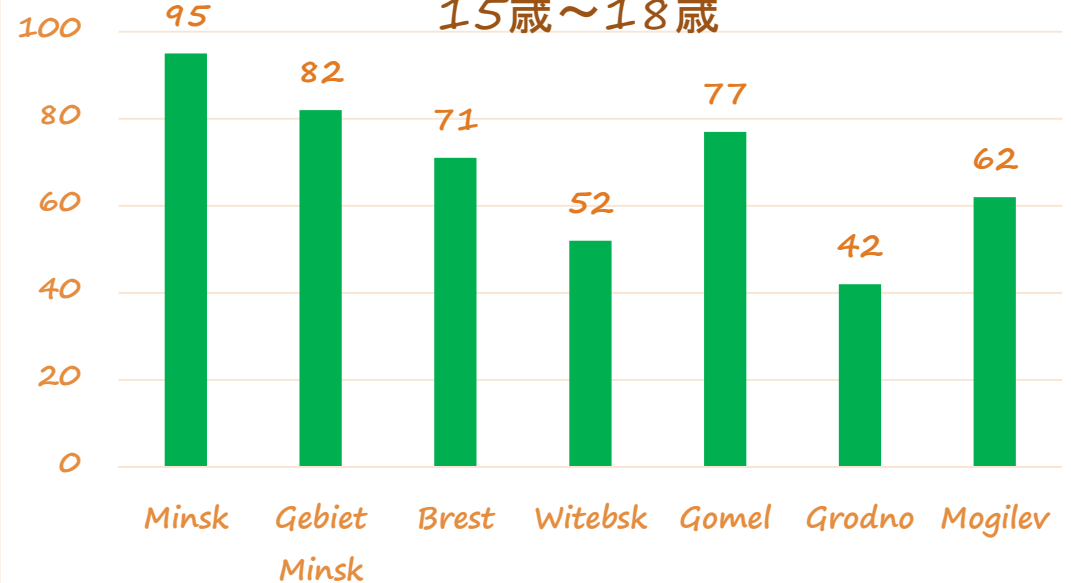
Kinder 0-14 Jahre

0歳～14歳



Kinder 15-18 Jahre

15歳～18歳



プロジェクト – 糖尿病と共に生きる



1994年から糖尿病を患う
子どものために治癒・教育
プログラムを実施。目的
は、糖尿病に苦しむ人々に
医療上及び社会的援助を
提供すること。

チーム構成：
コーディネーター
内分泌専門医
看護師
付添-教育者

プロジェクトの構造

I. 青少年の教育

10～16歳の青少年を対象に春と秋の2度、学校の長期休みにミンスクの療養所で実施。年間32名の子どもたちが参加し教育を受ける。

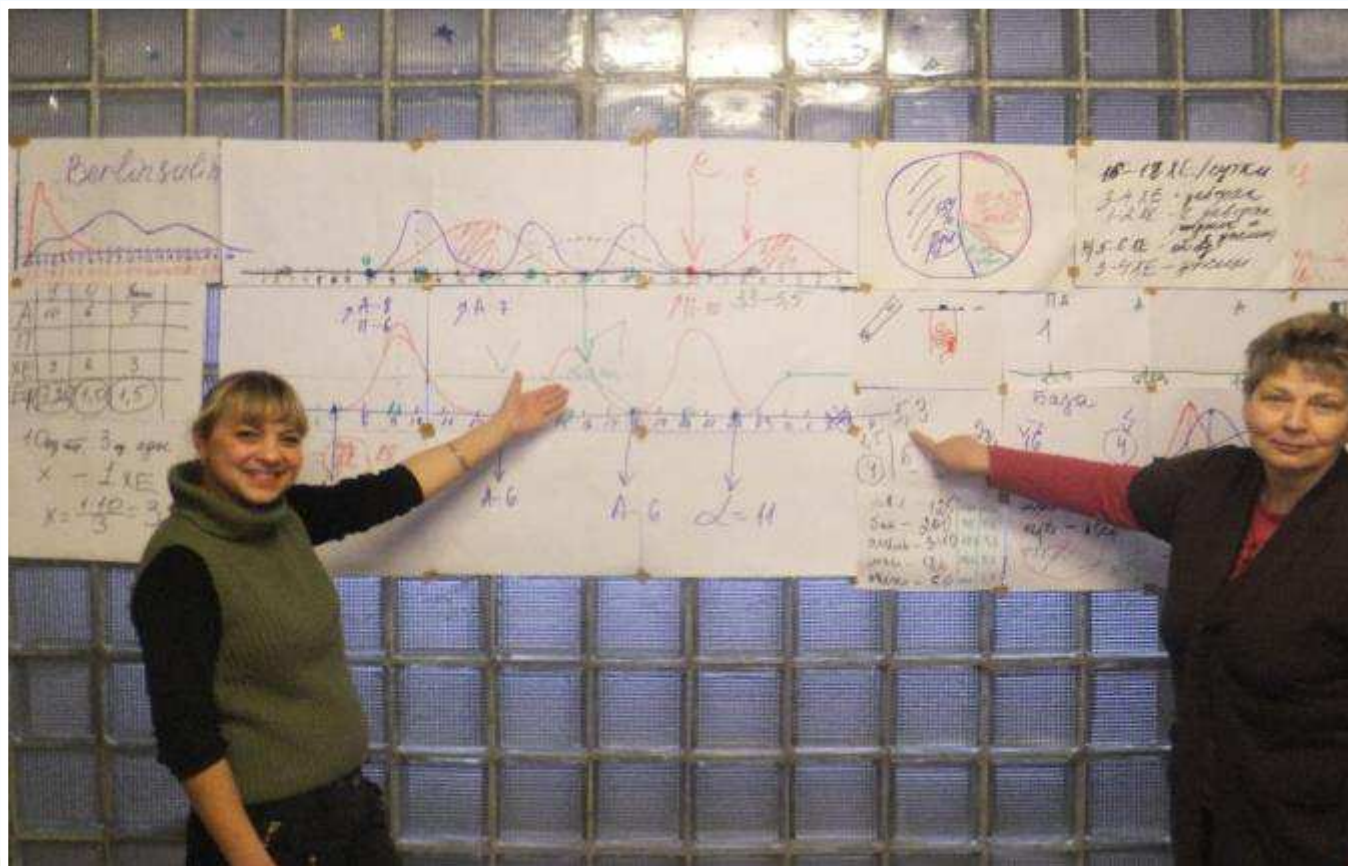
子どもたちは、学び、療養し、遊び、競技に参加し、表彰を受け、森を散歩し、博物館を訪ね、プールで泳ぐ。

II. 年少の患者を持つ親の教育

III. カメンツ(ドイツ)での子どもグループに対する療養と授業

子どもの教育プログラム 血糖値及び尿糖値の計測法を修得

授業はドイツ及び英国
の現代的な医療方法をも
とに行われる



血糖値の管理



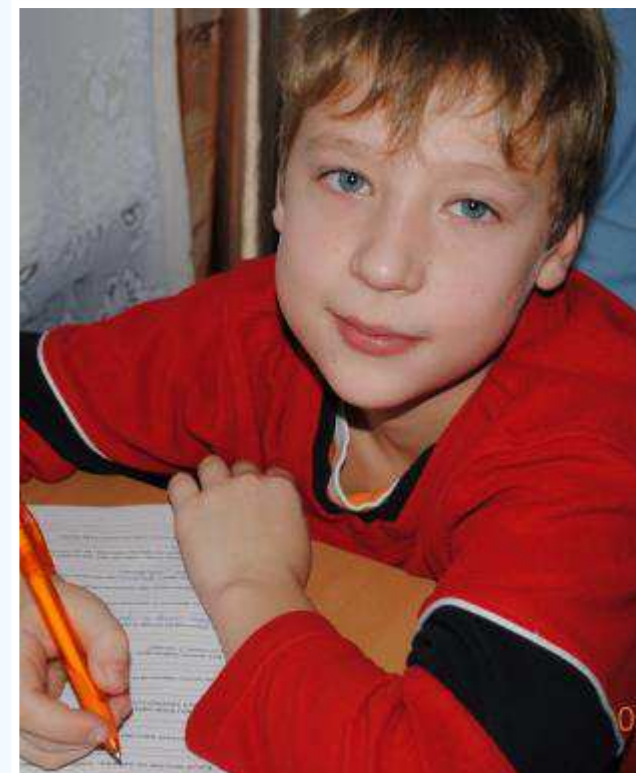
子どもたちは、みずからの血糖値の管理、正しい食事、インスリン療法を学び、合併症や併発症の予防をおこなう

医療サポート



内分泌専門の小児科医がプロジェクトの間、昼夜にわたり子どもたちを観察する。担当する医師にとっても貴重な体験で、良い研修の機会である。

日常生活での炭水化物量の管理



糖尿病の効果的治療には相応の患者の教育が不可欠

肉体的、精神的、社会的成長



社会的・精神的サポート。病気のために幼少期から肉体的な活動やスポーツをすることができない子どもたちが糖尿病と向き合う。

水泳やスポーツを学び上達する



糖尿病の教育プログラムは、ベラルーシ共和国内のプール設備を持つ療養所で実施される

医療機器



その時の状況に応じて、参加者全にインスリンペン、ブラッドランセツランセット、針、血糖値測定器、テストストリップなどをプレゼント。プログラム終了後の血糖値の管理に使用

。



糖尿病があっても積極的な生活が送れる



教育を受けて必要な知識を身につけた患者は、自主的に自身を管理するようになる。

すると、生活の質が向上し、寿命がのび、合併症を予防できる。

つまり、糖尿病を持ちながら、積極的に生きる可能性を持つことになる。



ベラルーシでの教育
プログラム終了後に
20人の子どもたちが
ドイツのカメンズでの
保養に招待された。
チェルノブイリの子と
もたち基金の招待で
、ここでさらに授業を
受ける。

この保養は子どもた
ちにとって大きな動機
付けであり、大きな夢
美でもある。

糖尿病の小さい子ども(0~10歳)を持つ家族のための 教育プログラム



親が病気を理解することが重要であり、内分泌や社会教育の専門家のアドバイス、及び、同じ環境にいる他の親との交流の場が提供される。さらに、子どもたちにはアクティブな保養、運動、集団での遊び、賞品付きのコンテスト等がこの教育プログラムに含まれている。

